

キーワードは“多様性”

夏の甲子園大会で、慶應高校が優勝しました。森林監督は優勝インタビューで「うちが優勝することで、高校野球の新たな可能性とか多様性とか、何か示せばいいなど。常識を覆す目的で、優勝から新しいものが生まれてくれるのであれば、本当にうれしいです。高校野球の新しい姿につながる優勝だった」と語りました。実は森林監督。知的障害者の野球参加を、積極的に支援してくれている方でした。部員たちに知的障害について十分なレクチャーを行ったうえで、本校ベースボール部と合同練習をしてきていました。慶應高校の選手の皆さんが、やがて社会のリーダーとして多様性を認め合う社会をリードしてほしいと強く願った次第です。



また今年の24時間テレビで「虹色のチョーク」というドラマが放映されました。この舞台となった川崎市にある日本理化学工業様の、障害者雇用への情熱、さまざまな工夫、底知れぬ優しさを感じ取れる作品でした。特に「障害者」とひとくくりに見るのではなく、一人ひとりに個性があって、その良さを活かしているという視点が鮮明になっていたところが嬉しかったです。障害者だって、障害者である前に一人の人間ですし、個性だってそれぞれ違うし、それが当たり前なのです。まさに多様性を認め合う社会の実現に向けたドラマだったと思います。この日本理化学工業様に初めて就職した方は、本校の卒業生とのこと。社会を変える一步を印した先輩方に、頭の下がる思いです。

今、社会ではさまざまな“多様性”を大切にすることが進められています。多様性が世界の

未来には必要であるということ、もっと突き詰めて言えば、多様性を大切にしていかなないと、人類の未来に重大な危機をもたらすということです。障害者だからとかLGBTQだからといって切り捨てるのではなく、そういった人たちがいてからこそ分かったこと、発見できたこと、進歩できたことが必ずあるからです。自然界においてもそうです。さまざまな動物・植物・菌類は、お互い結びつきあい、複雑な関係の中で成り立っています。どこかが欠けても関係が不安定になってしまいます。



人間社会においても自然界においても、“多様性”がこれからの大切なキーワードになってきます。本校では、今も、そしてこれからも、生徒の個性を大切に、多様性を認め合う社会に貢献していきたいと思っています。